

(31) ピーマン

(ア) 病害

病害虫名及び 防除時期	防除方法及び注意事項
モザイク病 トウガラシマ イルドモット ルウイルス (PMMoV)	<p>耕種的防除</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 抵抗性品種を栽培する。なお、PMMoV 抵抗性 (L3) 品種を侵す系統が道内で発生しているので特に注意する。 2. 種子及び土壌で伝染する。また汁液又は接触伝染もするので、発病株は周辺株を含めて早期に抜き取り、根を土壌に残さないように処分する。 3. 発病株が確認された施設では、管理作業を最後に行う。 4. 土壌伝染をするので、床土は無病土を用いるか、消毒を行う。 5. 種子伝染をするので消毒済み (70℃、3～4日間乾熱処理) の種子を使用する。
キュウリモザ イクウイルス (CMV)	<p>耕種的防除</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ハウス内及び周辺は除草をして清潔にする。 2. 発病株は早期に抜き取り処分する。 <p>薬剤防除</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 茎葉散布 媒介昆虫であるアブラムシ類を防除する。
黄化えそ病 トマト黄化え そウイルス (TSWV)	<p>耕種的防除</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ハウス内及び周辺は除草をして清潔にする。 2. 発病株は早期に抜き取り処分する。 <p>薬剤防除</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 茎葉散布 媒介昆虫であるアザミウマ類を防除する。
灰色かび病	<p>耕種的防除</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 多湿にならないハウス管理を行う。
うどんこ病 発病初期～	<p>薬剤防除</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 茎葉散布

(イ) 害虫

病害虫名及び 防除時期	防除方法及び注意事項
アブラムシ類	<p>耕種的防除</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ハウス被覆資材に近紫外線除去フィルムを用いると侵入抑制効果がある。 <p>薬剤防除</p>

病害虫名及び防除時期	防除方法及び注意事項
発生初期 6月中旬～	1. 植穴処理 2. くん煙処理 3. 茎葉散布 ウイルス病(CMV)を伝播するので、防除を徹底する。
ミカンキイロ アザミウマ 発生初期～	耕種的及び物理的防除 1. 寄生した作物をほ場内に持ち込まない。 2. 寄生し易い部分(花)に注意して早期発見に努める。 3. ハウス栽培では冬期間の被覆除去により越冬阻止が可能である。 薬剤防除 1. 茎葉散布 ウイルス病(TSWV)を伝播するので、防除を徹底する。
ヒラズハナア ザミウマ	物理的防除 1. ハウス被覆資材に近紫外線除去フィルムを用いると侵入抑制効果がある。
オオタバコガ	薬剤防除 1. 茎葉散布

(ウ) クリーン農業技術（病害虫防除関係分）（ピーマン）

- ウイルス抵抗性品種の導入
 - ・トウガラシ微斑ウイルス (PMMoV) 抵抗性品種 (L3)の導入による防除
- 化学的防除の効率化
 - ・灰色かび病菌の耐性菌出現防止対策として、系統の異なる薬剤のローテーション散布
- 物理的防除
 - ・PMMoV によるモザイク病対策として、乾熱処理による種子消毒
 - ・防虫ネットによる食葉性害虫及びアブラムシ(キュウリモザイクウイルス (CMV) を媒介) の侵入阻止
- 生物的防除
 - ・灰色かび病・うどんこ病への生物農薬の導入
 - ・PMMoV 対策として弱毒ウイルス(生物農薬：トウガラシマイルドモットルウイルス弱毒株水溶剤) の接種
 - ・近紫外線カットフィルムとの併用によるタイリクヒメハナカメムシ剤によるアザミウマ防除
- 耕種的防除
 - ・着花後の花卉・被害葉・被害果の早期除去による灰色かび病の軽減

- ・ハウスの換気による多湿条件の緩和
- ・ベッドをマルチで被覆、かん水チューブはマルチの下に設置し、ハウス内湿度抑制
- ・トマト黄化えそウイルス（TSWV）対策として、ハウス内外の除草の徹底
- ・ミカンキイロアザミウマ対策として、寄生した苗・植物を持ち込まない、早期発見と有効薬剤による防除、冬期間の被覆ビニール除去による越冬阻止

※注釈

●土壌診断による施肥の適正化

露地栽培では生土培養窒素又は熱水抽出性窒素の分析（3年以内）、ハウス栽培では硝酸態窒素の分析（定植前もしくはは種前）を行い、窒素肥沃度に応じた施肥を行う。

●ミカンキイロアザミウマ対策として、寄生した苗・植物を持ち込まない、早期発見と有効薬剤による防除、冬期間の被覆ビニール除去による越冬阻止

寄生苗等の持ち込みに注意し、早期発見と化学的防除により密度抑制し、冬期間のビニール除去による越冬阻止により総合的に防除を行う。冬期間の被覆ビニール除去が越冬を阻止する確実な方法であるが、側窓を開放し-10℃以下で168時間以上を確保できれば越冬を阻止できる。

●抵抗性品種の利用

PMMoVによるモザイク病の防除は、抵抗性品種利用が有効である。なお、PMMoV抵抗性(L3)品種を侵す系統が道内で発生しているので特に注意する。

●うどんこ病対策

うどんこ病の初発期は8月以降で、初発後3～4週間は進展が緩慢で、9月中旬頃から急激に増加する。生物農薬（バチルスズブチリス水和剤）は発病抑制効果が認められる。

●タイリクヒメハナカメムシ剤によるアザミウマ防除

タイリクヒメハナカメムシ剤は、侵入抑制効果のある近紫外線カットフィルムと併用することにより、アザミウマを低密度にでき減化学農薬ができる。放飼は発生初期（粘着板に誘殺）を行う。

落葉を防ぐことはできないため、使用は発病初期の防除に限られる。